

Raffiné Journal vol.07

見えている層

同じ会話を聞いていても、
見えているものは同じではない。

言葉だけを聞く人もいれば、
その奥に触れてしまう人もいる。

会話は一つでも、
そこにある層は一つではない。

人の会話を聞いていると、
同じ言葉が交わされているのに、
見えているものが違うことがある。

多くの人は、
言葉の意味を受け取って話している。

けれど、ときどき
言葉の奥にあるものに触れてしまう瞬間がある。

声のわずかな揺れや、
ほんの短い間。

それは説明できるほど
はっきりしたものではない。

ただ、
同じ会話の中に
別の層が重なっているように感じる。

そのことに、
私は子どもの頃から
なんとなく気づいていた。

何人かで話しているときだった。

会話は軽く、
みんな笑いながら言葉を交わしていた。

その中で一人が、
少しだけ声を落とした。

ほんの一瞬だった。

たぶん、
その場の誰も気づかなかったと思う。

でもそのとき、
その人はまだ会話を続けているのに、
すでにその場から少しだけ離れていた。

言葉は同じ場所にあるのに、
その人だけ別の位置にいる。

そのずれが、
言葉に出る前に
そこに残っていた。

会話はそのまま続いていく。

けれど私の中では、
同じ会話が
少し違うものになっていた。

別の場面でも、
似た感覚になることがある。

ある人が話しているとき、
言葉はとても穏やかだった。

けれどその言葉の奥には、
別のものが残っていた。

それは
はっきりした感情ではない。

ただ、
言葉になる前のものが
少しだけそこにある。

同じ会話を聞いていても、
それに触れる人は多くない。

だからときどき、
自分だけ違う会話を聞いているような
不思議な感覚になる。

子どもの頃、
それをうまく説明する言葉はなかった。

ただ、
同じ話を聞いているのに
周りとは違うものを見ている気がしていた。

言葉の意味だけではなく、
その奥にあるものが
自然と目に入ってくる。

その感覚は、
特別なものだとは思っていなかった。

ただ、
会話にはいくつもの層があって、
人はそれぞれ違うところを見ている。

そんなふうに
ぼんやり感じていた。

会話は一つでも、
そこにある層は一つではない。

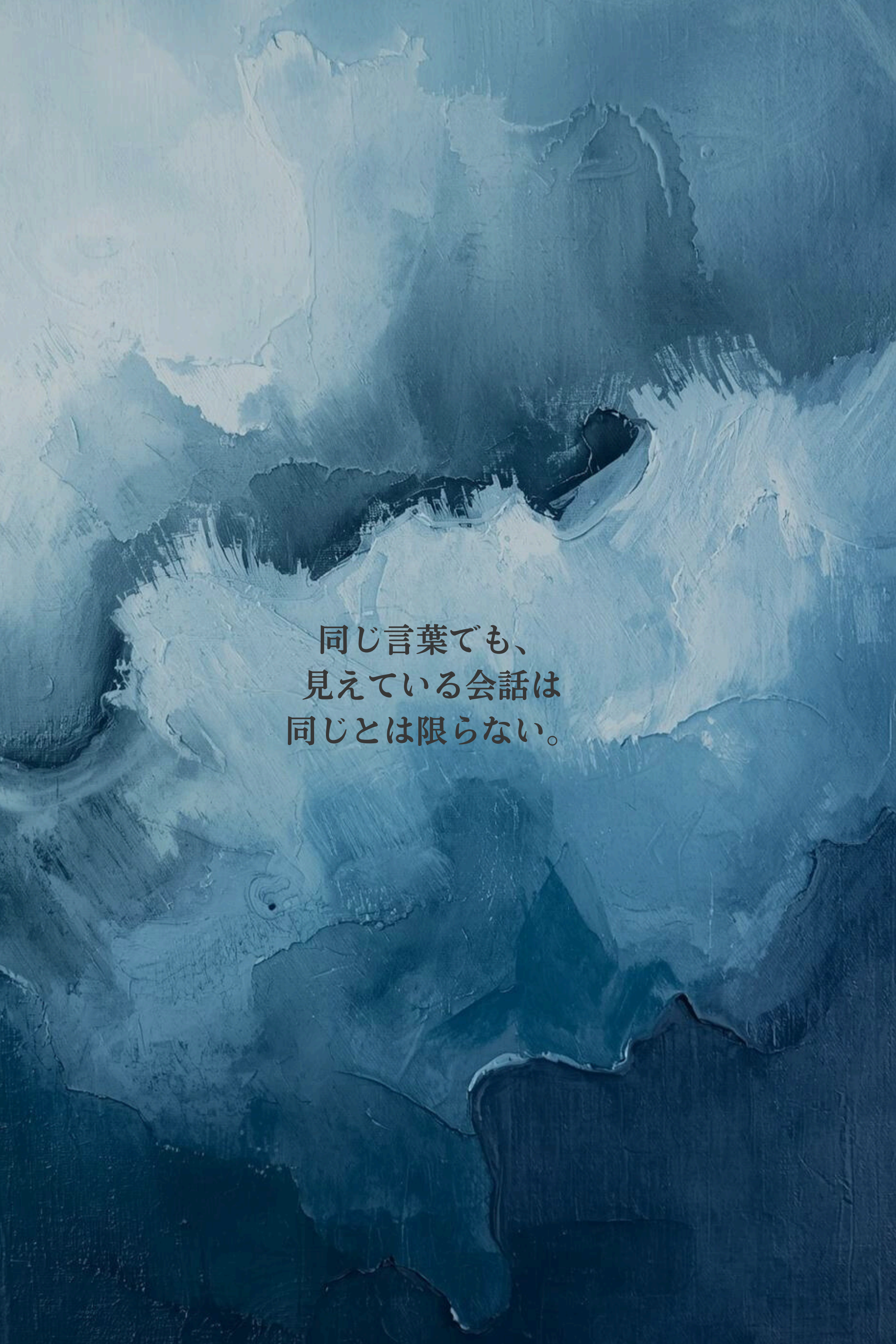
言葉の意味を受け取る人もいれば、
その奥に触れてしまう人もいる。

どちらが正しいわけでもない。

ただ、
見えている層が違う。

人は、
同じ会話をしているわけではない。

同じ言葉の中で、
それぞれ違う層を見ながら
言葉を交わしている。

The background is an abstract, textured composition of various shades of blue, ranging from light, almost white tones to deep, dark navy blues. The texture is created through thick, expressive brushstrokes that overlap and blend, giving the image a sense of depth and movement. The overall effect is reminiscent of a watercolor or oil painting on a slightly rough surface.

同じ言葉でも、
見えている会話は
同じとは限らない。



R.

Raffiné Journal vol.07
2026

美学思想家
古川玲奈

発行：Raffiné